

日本産婦人科感染症学会

令和 6 年 12 月 7日

妊婦さんはパルボウイルス B19 によるリンゴ病（伝染性紅斑）に注意しましょう。

パルボウイルスB19によるリンゴ病（伝染性紅斑）は4～5年周期で流行し、最近では2015年、2019年に流行がありました。2024年の秋ごろより関東を中心に流行が見られ、2025年は全国的な流行が危惧されますので注意が必要です。日本人妊婦の抗体保有率は、20～50%とされ、妊婦が初めて感染した場合は、6%が流死産や子宮内胎児死亡となり、4%は胎児貧血や胎児水腫を起こします。

パルボウイルスB19は感染した人の唾液、痰、鼻水の中に出てきて、人から人へと広がります。リンゴ病特有の皮膚の症状が出る1～2週間前の「風邪のような症状」の時期に感染力があります。パルボウイルスB19は感染した人の咳やくしゃみからのしぶきを吸い込んだり（飛沫感染）、感染した人と同じカップで飲んだり、感染した人と同じ道具を使ったりして、ウイルスを自分の口や鼻の粘膜に運ぶこと（接触感染）により感染します。上のお子さんや夫が知らないうちに感染していることもあります。ふだんから手洗い、うがい、マスクの使用を心がけましょう。また、流行時期には感染者や風邪症状のある人との接触をできるだけ減らしましょう。

大人のパルボウイルスB19感染は症状だけでは診断が難しいことがあります。そのためリンゴ病にかかった患者さんとの接触の有無や職業などの問診に加え、血中のIgG（保険未収載）、IgMの測定により感染を判定します。IgMが陽性の妊婦さんは最近初めて感染した可能性があります。感染が心配な妊婦さんは、医療機関に問い合わせて抗体検査や超音波検査を受けることをお勧めします。

* パルボウイルスB19感染予防のためのパンフレットは

<https://www.keijinkai.com/teine/fc/file/241206.pdf> から入手できます。